

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第 7 部門第 1 区分  
 【発行日】平成 25 年 2 月 14 日 (2013.2.14)

【公開番号】特開 2011-141956 (P2011-141956A)  
 【公開日】平成 23 年 7 月 21 日 (2011.7.21)  
 【年通号数】公開・登録公報 2011-029  
 【出願番号】特願 2010-393 (P2010-393)  
 【国際特許分類】

H 0 1 J 35/16 (2006.01)

H 0 5 G 1/00 (2006.01)

H 0 1 J 35/10 (2006.01)

A 6 1 B 6/03 (2006.01)

【F I】

H 0 1 J 35/16

H 0 5 G 1/00 C

H 0 1 J 35/10 H

H 0 1 J 35/10 B

A 6 1 B 6/03 3 2 0 C

【手続補正書】  
 【提出日】平成 24 年 12 月 19 日 (2012.12.19)

【手続補正 1】  
 【補正対象書類名】特許請求の範囲  
 【補正対象項目名】全文  
 【補正方法】変更  
 【補正の内容】  
 【特許請求の範囲】  
 【請求項 1】

電子ビームを放出する陰極と、前記電子ビームを衝突させ、該衝突した位置を焦点位置とする X 線を発生させる陽極ターゲットと、前記陽極ターゲットを回転させる回転機構部と、  
 前記陰極及び前記陽極ターゲットを真空中に保持する外囲器とを備えた X 線管装置であって、

前記外囲器の内壁面側に形成され、前記陽極ターゲットの電子ビーム衝突面側に突出する第 1 の凹凸部と、

前記陽極ターゲットの電子ビーム衝突面側の領域であり、少なくとも電子ビーム衝突領域を除く領域に形成され、前記外囲器の内壁面側に突出する第 2 の凹凸部と、の少なくとも一方を備えることを特徴とする X 線管装置。

【請求項 2】

請求項 1 に記載の X 線管装置において、  
 前記第 1 の凹凸部と前記第 2 の凹凸部とを備え、  
 前記第 1 の凹凸部と前記第 2 の凹凸部との凹凸が相互に組み合わせられて配置されることを特徴とする X 線管装置。

【請求項 3】

請求項 2 に記載の X 線管装置において、  
 前記第 2 の凹凸部と前記電子ビーム衝突領域との間に段差を備えることを特徴とする X 線管装置。

【請求項 4】

請求項 2 に記載の X 線管装置において、

前記第 2 の凹凸部のうち最外周に形成される部分が前記陽極ターゲットの外周方向に突出する計上であることを特徴とする X 線管装置。

【請求項 5】

被検体に X 線を照射する請求項 1 乃至 4 の何れか 1 項に記載の X 線管装置と、  
前記 X 線管装置に対向配置され前記被検体を透過した X 線を検出する X 線検出器と、  
前記 X 線管装置と前記 X 線検出器を搭載し前記被検体の周囲を回転するスキャナと、  
前記 X 線検出器で検出した投影データを前記 2 つの焦点位置毎に収集するデータ収集部と、

前記データ収集部で収集した投影データに基づき前記被検体の断層像を再構成する画像再構成装置と、

前記画像再構成装置で再構成した断層像を表示する画像表示装置とを備えたことを特徴とする X 線 CT 装置。